

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2020年10月11日（日）

主 題：「たましいの牧者のもとに」（2）

ー良き羊飼いー

テキスト：1ペテロの手紙2章21ー25節

はじめに

{例 話}

- 先日、私は大変興味深いニュースを聞きました。
「明日のイスラエル、2040」（Israel 2040 Tomorrow）プロジェクトです。
- イスラエル政府は今後20年で、人口は約1千300万人（現在約919万人）になると推測しています。これはユダヤ人が世界各地から、イスラエルに帰還することに起因しています。現在、イスラエル・テルアビブ首都圏では、急速な人口増加にともない、人々が住める場所が少なくなりつつあります。
- しかしながら、イスラエル国（日本の四国ほどの面積）の土地の、約3分の2は「砂漠」と「荒野」です。隣国はみなイスラム教国ばかりです。政治的、軍事的に常に緊張感が高まっています。
- そこで政府は今、巨大プロジェクトを計画中です。これからの20年で、ガリラヤ地方とネゲブ地方を開発し、人々が住めるようにするという大プロジェクトです。ネゲブ地方の砂漠に、約150万人もの人々の雇用、住居、インフラ、教育、医療、福祉施設などを作る大プロジェクトです。課題は山積しています。
- どのようにイノベーション（革新）できるかが、これからの大きな課題です。それが「明日のイスラエル、2040」プロジェクトです。
- イスラエル国の初代首相であったデービット・ベン・グリオンは、次のように語りました。「イスラエルの未来は、砂漠をどれだけ緑化するかにかかっている」 砂漠地帯であるネゲブ地方は、アブラハム、イサク、ヤコブの神が父祖アブラハムをとおして、神がイスラエルの民に多くのわざを成された重要な地です。
- また神の預言者たちが、神からみことばを託され、イスラエルの民に語られた地です。これから、この砂漠地帯が埋め立てられ、開拓され、人々が住むようになることは非現実的ですが、現実が見えてきました。
- 預言者エゼキエルは紀元前6世紀、次のように語りました。（前後を読むこと）
36:34 荒れ果てた地は、通り過ぎるすべての者に荒れ野と見なされていたが、耕されるようになる。
36:35 このとき、人々はこう言うだろう。『あの荒れ果てていた地はエデンの園のようになった。廃墟となり、荒れ果て、破壊されていた町々も城壁が築かれ、人が住むようになった』と。
- 今、聖書の中にイスラエルの将来が見えてきました。
私は、「明日のイスラエル、2040」プロジェクトを聞き、旧約聖書のエゼキエル預言と照らし、身が引き締まる思いを持ちました。これが神のことばである聖書が語っていることだからです。非常に現実的です。そして聖書が神の書であることを覚えました。感謝。

- では、今日の本題に入りましょう。先週私たちは、イエス・キリストが苦しみを受けて、苦しみを耐え忍ばれたことを学びました。そしてイエスが、なぜ受難をお受けになられたかを学びました。それは私たちの罪が赦され、義に生きるためでした。そして、イエスの十字架の傷によって癒されるためであることも学びました。
- 今日は、そのイエス・キリストが与えてくださった幸いな「恵み」を、さらに掘り下げてみたいと思います。2点

大切なポイント

1. 私たちは癒された

2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

1) 手紙の受け取り人

- 前からお話ししているように、手紙の読者はユダヤ人クリスチャンで、離散した地で奴隷（サーバント、召使い）でした。奴隷の身分でクリスチャンになった人たちでした。
- 彼らの中には、意地悪な主人から不当な扱いを受けていた人たちがいました。正しいことをしていながら、打ち叩かれる者たちもいました。不当に鞭で打たれた人もいたでしょう。イエス・キリストと同じように、きっと身体にみみず腫れや、あざができていた人もいたでしょう。ペテロはそのような彼らに、キリストの「内傷のゆえに、あなたがたは癒された」と書きました。じつにリアル（現実的）です。
- 奴隷だけではありません。手紙の受け取り人の多くが苦しみの中にありました。ペテロは次のように1章で書いています。

1:6 今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならない

とあります。またペテロは3章で次のように書きました。

3:14 人々（悪を行う者たち）の脅かしを恐れたり、おびえたりしてはいけません。

- 彼らは、そのような厳しい状況に置かれたことが分ります。ところが、驚くべきことに、苦しみはありましたが、彼らの内には喜びがありました。

2) 彼らには喜びがあった

1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。

- どうして、彼らにはそのような喜びがあったのでしょうか。
⇒ 信仰の結果であるたましいの救いを得ていたからです。
- ペテロは言いました。
1:9 あなたがたが、信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです。
- 確かに苦しみはあります。しかし彼らは、まことの神を知るようになった喜びを経験していました。神がどれほど大きな犠牲を払い、救いの道を用意してくださったかを知

- りました。そうしたことを通して、彼らは神による癒しを経験していたと言えるでしょう。
- 2千年前の奴隷たちだけでありません。神は今日も苦しみの中にあっても、私たちのたましいに触れ、慰めと癒しを与えてくださいます。そのような経験をすることは可能です。そして、心に慰めと励ましをいただき、癒されるのです。
 - たとえば、私たちには次のような器官があります。
 - ① 「目」: その証拠に、他人の欠点や失敗はじつによく見えるものです。しかし、自分の歪や過ちはあまり見えません。病んでいるのではないのでしょうか。
 - ② 「耳」: 自分の都合の悪いことについては、聴力が低下します。病んでいるのではないのでしょうか。
 - ③ 「口」: 口から出る言葉です。他の人を批判し、傷つけてしまう言葉が出ます。言うべきでないことを言い、失言してしまいます。病んでいるのではないのでしょうか。
 - ④ 「手」: してはいけないと思うことに、手が向かいます。病んでいるのではないのでしょうか。
 - ⑤ 「心」: 心も傷ついて、人を赦すことができなかつたり、怒りが溜まり正常に機能しないのです。愛することができないのです。病んでいるのではないのでしょうか。
 - 皆さん。私たちのこのような心と身体にある傷や病の原因は、どこにあるのでしょうか。それは罪に原因があります。神に背を向け、神を無視している罪です。その結果、あらゆる症状が生じるのです。しかし、そのような私たちが癒されたのです。
 - 癒されるという手術は、主治医であるイエス・キリストによります。イエスはご自分の命を犠牲にして、私たちの病巣(罪)を取り除いてくださったのです。病巣(罪)が取り除かれたのですから、私たちの罪は赦されました。私たち自身は何が起こったか分からないかも知れませんが、確かに癒されたのです。その結果、
 - 「目」は少しずつ見えるようになりました。自分の生活の中に神が働いてくださっていることが見えます。「耳」も少しずつ聞こえるようになりました。私たちに語りかけてくださる、神の声が聞こえるようになりました。「口」からも、神への感謝、神への賛美、他の人への思いやりの言葉が、少しずつですが、出るようになりました。
 - そして、全身に平安と力が感じられるようになりました。イエス・キリストが身に受けてくださった「その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。」(2:24)によるのです。なんとという幸いではありませんか。しかし、まだ、癒される必要があるのではないのでしょうか。

2. たましいの牧者のもとに

2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。

- ペテロは「あなたがたは羊のようにさまよっていた。」と述べました。彼は4章で次のように書いています。

4:3 あなたがたは異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、欲望、泥酔、遊興、宴会騒ぎ、律法に反する偶像礼拝などにふけりましたが、それは過ぎ去った時で十分です。

これらは、私たちが好んだ欲望、快樂のことです。私たちはその奴隷でした。

- 皆さん。私たちは神の形に似せて造られたものですから、良い羊飼いである神との交わりを失った状態では、どうしようもなく不安であり、空しいのです。心が満たされません。お酒をあびるほど飲んでも、あるいは深夜までゲームに夢中になり、気をまぎらわせようとします。
- いつときは、空しさと不安を忘れることができましょう。しかし酔いから醒めれば、もっと不安になり、もっと空しくなります。本当の満足を得ることはできないのです。

1) たましいの牧者のもとに

- しかし、そのような私たちが、自分のたましいの牧者であり、監督者であるお方のもとに帰ることができました。神は私たちのたましいの牧者です。

イエス・キリストは次のように言われました。ヨハネ福音書

10:11 わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。

そして更に言われました。

10:14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。ヨハネ

- イエス・キリストは、私たちの「たましいの牧者」です。そして「良い牧者」です。ここで「良い牧者」の特性を挙げてみましょう。

① 迷った羊を探し出してください

99匹の羊を置いてでも、迷い出た羊を探し出してくださいのお方です。

私たち1人ひとりを、かけがえのない存在として扱ってくださいます。

② 羊を集め、1つの群れとしてください

私たちは孤立した存在ではありません。牧者のもとに集められ、仲間ができ、助けられる、また助ける仲間です。

③ 病んだ羊、傷ついた羊を手当てしてください

良い牧者は、羊を置き去りにはしません。

④ 羊を外敵から守ってください

命をかけても守ってくださいます。いいえ、すでに1人子の命を犠牲にして、私たちを連れ戻してくださいました。

⑤ 牧草地へ先導し、養ってください

- 皆さん。私たちはこのような「良い牧者」のもとに帰ることができました。それは、ただ神の恵みであります。感謝。

2) 監督者のもとに

2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。

- さらにペテロはここで、「牧者」を、「監督者」と置き換えています。なぜ、「良い牧者」を「監督者」と置いたのでしょうか。この「監督者」という言葉には、守護者、守り手という意味があります。

- ・たましいの良い牧者は、羊1匹1匹に目を止めてケアしてくださいます。せっかく牧者のもとに戻ってきたのに、迷い出ることのないように見張っている姿です。それが「監督者」であります。
 - ・いかがでしょうか。私たちは「たましいの牧者であり、監督者である」神のもとに立ち返ることができたでしょうか。そして、自分が癒されたこと気づいているでしょうか。
 - ・あるいは、自分の病いや傷を隠しているでしょうか。教会にいる自分と、家にいるときの自分に違いがあって、心が不安定になってはいないでしょうか。
 - ・ぜひ、癒し主である「良い牧者」に、私たちの傷の手当てをしていただきましょう。癒してくださる主の御手に触れていただきましょう。その第一歩は、自分の気持ちを、主に正直に申し上げることです。 みことばをお読みしましょう。
- 2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。
- 2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。
- ・このみことばが、私たちのうちで、本当に実現するよう期待しましょう。

ま と め

主 題：「たましいの牧者のもとに」（2）

—良き羊飼い—

- ・今日、私たちはイエス・キリストが与えてくださった贈物である「恵み」を学びました。初代教会時代の聖徒は、苦しみや困難があっても、喜びがありました。その喜びは、キリスト・イエスの打ち傷によって、病巣（罪）が除去されて、贈物（ギフト）として与えられたものです。
 - ・罪の赦しは、心に喜び、慰め、勇気、力を与えてくれます。なんとという幸いではありませんか。それだけではありません。私たちには、「たましいの牧者」、そして「監督者」であるイエス・キリストが、共にいてくださいます。
- ですから、私たちはこのお方を礼拝し、賛美するものです。
- ・みことば、もう一度読みましょう。
- 2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。
- 2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。

* God bless you!